



軽防協ニュース速報

2017年第4四半期(10月-12月)の伝染病発生状況

2018年3月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。しかし、オーストラリアからの 2017 年第 2、3 四半期の報告が遅れている。報告され次第直ちに配信する予定である。その他の国の 2017 年第 4 四半期の報告は通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2017 年第 2、3 四半期の報告

オーストラリアからの第 2、3 四半期の報告は後日配信する。

2017 年第 4 四半期の報告

アルゼンチン

ロタウイルス

2017 年第 4 四半期に、2 施設においてロタウイルスに感染したサラブレッド種子馬が 6 例確認された。10 月に発生した 1 件は、ワクチン未接種の繁殖牝馬から生まれた子馬で、11 月に発生した 1 件は、ワクチン接種した繁殖牝馬から生まれた子馬であった。2 件とも感染した子馬は 2 ヶ月齢で下痢を呈した。検査機関は国立農業技術研究所 (INTA) で、抗原検出 ELISA によって確定診断がなされた。

オーストラリア

報告未着。

カナダ

馬伝染性貧血(EIA)

2017年10月1日から12月31日までの間、アルバータ州で4例、ケベック州で1例、計5例のEIA陽性例が報告された。陽性例は、アルバータ州の3施設、ケベック州の1施設で確認された。

アルバータ州の 1 例は明らかな臨床症状を呈し、検体採取後間もなく死亡した。当該施

設では継続中の疾病調査の中で追加症例(無症候)が確認された。他のアルバータ州とケベック州の例では輸出検査中もしくは着地検査中(入厩前の自衛検査)に確認された。陽性例全てで疫学的な関連はなく、検体採取時には臨床症状を示さなかった。検査機関は CFIA (カナダ食品検査庁) のリファレンスラボラトリーで行われた。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告未着。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

馬伝染性子宮炎(CEM)

2017 年第 4 四半期の間に、調教施設内で 1 歳のサラブレッド牝馬で 1 例確認された。輸出検査の生殖器スワブによって不顕性感染が確認された。陽性馬は未経産で感染の原因は不明である。治療後の再検査で陰性が確認された。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2017 年第 4 四半期に、2 件の EHV-1 による流産が確認された。1 件は 2017 年 12 月 6 日にオルネ県で、1 件は 2017 年 12 月 29 日にニエーブル県で確認された。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経型疾患

2017 年 10 月 23 日、カルバドス県にて EHV-1 による神経型疾患の発生が 6 歳雄のフレンチサドルブレッド種で 1 例確認された。感染馬は運動失調、無気力、発熱の症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。感染馬の隔離、当該施設の移動制限、感染馬の治療を含む防疫対策が講じられた。同施設には他に 14 頭が飼養されていた。

2017 年 12 月 9 日、カルバドス県の種畜場にて EHV-1 による神経型疾患の発生がフレンチサドルブレッド種で 1 例確認された。感染馬は運動失調、横臥の症状を呈した。同施設には他に 80 頭が飼養されていた。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

2017 年 12 月 22 日、アルマリティムの調教施設にて EHV-1 による神経型疾患の発生が 7 歳雄のサラブレッド種で 1 例確認された。感染馬は運動失調の症状を呈した。他 3 例は発熱の症状を呈した。感染馬と健常馬の隔離、消毒、当該施設における他馬の健康観察(検温)、

移動制限を含む防疫対策が講じられた。同施設の繋養馬に PCR 検査が行われたが、感染馬は認められなかった。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

13 件の EHV-4 による呼吸器疾患が確認された (9 件は 1 例ずつ、2 件は 2 例ずつ、1 件は 3 例、1 件は 4 例)。発生地域はアン県、カルバドス県、シャラント県、コート＝ダルモール県、フィニステール県、イル＝エ＝ビレーヌ県、マンシュ県、オルネ県、ピュイ＝ド＝ドーム県、ピレネー＝アトランティック県であった。感染馬は発熱や鼻漏、発咳、拘縮の症状を呈した。2 件はサラブレッド種であった (カルバドス県、コート＝ダルモール県)。全例で鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

馬伝染性貧血(EIA)

2017 年 12 月 27 日、馬伝染性貧血が 1 件、国立のリファレンスラボラトリーにて血液検体(血清診断)で確認された。感染馬はアラブ馬で主に愛玩用として飼養されており、運動失調、無気力、消瘦の症状を呈した。同施設には他に 2 頭おり、検査が行われる。感染馬は安楽死処分となった。疫学調査によって感染源が特定され、OIE に通知された。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

ロタウイルス

2017 年 10 月 31 日、モルビアン県にてロタウイルス感染による下痢、発熱もしくは無気力の症状を呈した 1 ヶ月齢フレンチサドルブレッド種が 1 例確認された。直腸スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。同施設には他に 30 頭が飼養されていた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

11 件の発生が報告された (7 件は 1 例、2 件は 2 例ずつ、1 件は 4 例、1 件は 7 例)。発生地域はコート＝ダルモール県、ドルドーニュ県、イル＝エ＝ビレーヌ県、マンシュ県、モーゼル県、オルネ県、ローヌ県、サルト県、タロン＝エ＝ガロンヌ県であった。感染馬はリンパ節腫脹、発熱、鼻漏、発咳、無気力、食欲不振の症状を呈した。確定診断は PCR 検査 (7 例)、細菌培養 (4 例)、鼻咽頭スワブ (検査法不明、4 例)、鼻腔スワブ (検査法不明、3 件) および臨床症状(鼻漏もしくはリンパ節腫脹、4 例)によってなされた。

ドイツ

報告事項なし。

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎(CEM)

2017年第4四半期の間、異なる2施設においてCEMの発生が2例(1例はアイスランド種セン馬、1例はアメリカンクォーターホース種馬)確認された。確定診断は生殖器スワブを用いたPCR検査、培養検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型(EHV-1)による神経型疾患

2017年4四半期の間、EHV-1による神経型疾患の発生が1例確認された。感染馬は発熱、神経症状を呈した。確定診断は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型(EHV-1)による呼吸器疾患

2017年第4四半期の間、EHV-1による呼吸器疾患の発生が1例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス1型(EHV-1)による流産

2017年第4四半期の間、異なる2施設においてEHV-1による呼吸器疾患の発生が2例確認された。確定診断は胎子および胎盤組織を用いたPCR検査によってなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017年第4四半期の間、異なる3施設において腺疫の発生が3例確認された。感染馬は発熱、鼻漏の症状を呈した。確定診断は細菌培養、鼻咽頭スワブを用いたPCR検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス(EHV)による疾患

2017年第4四半期の間、EHVによる疾患が5例(キルデア2例、リマリック1例、ティペラリー1例、ウェクスフォード1例)報告された。更なる情報は得られていない。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2017 年 10 月 2 日から 2017 年 12 月 4 日の間に、異なる 5 施設において EHV-1 による流産の発生が 5 例確認された。4 例はワクチン接種済みであった。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所および北海道胆振家畜保健衛生所で実施された。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2017 年 9 月 28 日から 2017 年 10 月 17 日の間に、EHV-1 による呼吸器疾患の発生が 7 例確認された。全例でワクチン未接種であった。感染馬は発熱の症状を呈した。確定診断は栃木家畜保健衛生所で実施された。

マレーシア

報告未着。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

アフリカ馬疫 (AHS)

毎年 9 月になると、AHS の流行時期になる。2017 年 10 月から 12 月の間、AHS の単発例が 3 例（イースタンケープ州、フリーステート州、ハウテン州各 1 例）が確認された。3 件とも AHS 汚染地域での発生である。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による疾患

2017 年第 4 四半期中に、ウエスタンケープ州にて EHV-1 による疾患が 2 例確認された。

アルボウイルス

疾病の発生状況の確認依頼に基づき、2017 年第 1、2 四半期におけるアルボウイルス、特に WNV、ミドルブルグウイルスのレポートが、南アフリカから ICC に報告された。レポートはプレトリア大学ウイルス学部門ウイルス性人獣共通感染症センターの節足動物媒介性新興感染症および呼吸器系ウイルスプログラムの調査の一環として報告された。いずれの例も確たる臨床情報は得られていない。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫は南アフリカでは風土病であり、散発的に発生している。

ピロプラズマ病(*B.caballi*、*T.equi*)

2017年第4四半期中に、ピロプラズマ病が南アフリカにある9つの州のうち6州（ハウテン州、ノースウエスト州、ムプマランガ州、ウエスタンケープ州、クワズール・ナタール州、イースタンケープ州）にて27例の発生が確認された。

韓国

2017年における血清学的サーベイランス

2017年、韓国で飼養されている馬において、アフリカ馬疫（AHS）、水胞性口炎（VS）、馬伝染性貧血（EIA）、馬ウイルス性動脈炎（EVA）、日本脳炎（JE）、ウエストナイル熱（WNF）および馬インフルエンザ（EI）が存在している可能性について調査するために、血清学的なサーベイランスが行われた。

サラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬を含む合計1361頭の血清がこの調査に用いられた。血清の採取は韓国馬事会（KRA）によって行われ、検査は韓国動物・植物検疫所（APQA）によって実施された。結果は以下の通りである。

アフリカ馬疫（AHS）

市販のELISAキットにより全ての検体で陰性が確認された。

水胞性口炎（VS）

市販のELISAキットおよび中和試験により全ての検体で陰性が確認された。

馬伝染性貧血（EIA）

市販のELISAキットおよび寒天ゲル内沈降反応により全ての検体で陰性が確認された。

ウエストナイル熱（WNF）

市販のIgM捕捉ELISAキットおよび中和試験により全ての検体で陰性が確認された。

馬ウイルス性動脈炎（EVA）

市販のIgM捕捉ELISAキットおよび中和試験により全ての検体で陰性が確認された。

日本脳炎

ワクチン接種により、中和試験によって1268検体（93.17%）が陽性となった。

馬インフルエンザ

ワクチン接種により、HI試験によって1056検体（77.6%）が陽性となった。

2017年におけるピロプラズマ病およびスーラ病の血清学的サーベイランス

2017年第1、2四半期の間、ピロプラズマ病およびスーラ病に対する血清学的なサーベイランスが行われた。サラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬など

KRA の競馬場および牧場で繋養されている合計 436 頭の血清がこの調査に用いられた。血清の採取および検査は KRA によって行われた。結果は以下の通りである。

ピロプラズマ病(*B.caballi*、*T.equi*)

市販の cELISA キット (抗体検査キット : VMRD OIE 公認) により全ての検体で陰性が確認された。

スーラ病(*T.evansi*)

市販の CATT/*T.evansi* キット (AT&-PU、ベルギー) により全ての検体で陰性が確認された。

2017 年における馬伝染性子宮炎 (CEM) サーベイランス

KRA は <http://studbook.kra.co.kr> に登録されているサラブレッド種牡馬および繁殖牝馬 2165 頭の検体を用いて検査を行った。結果は以下の通りである。

馬伝染性子宮炎(CEM)

生殖器スワブを用いて行った qPCR により 22/2165 検体 (1.02%) が陽性となった[2016 年は 20/2086 検体(0.96%)]. 陽性馬は繁殖に供されておらず、移動制限が課せられている。陽性馬は治療中で 3 回陰性が確認されるまで APQA にて検査されることになっている。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による疾患

2017 年 10 月に EHV-4 による疾患が 1 例確認された。確定診断は PCR によってなされた。感染馬は発熱の症状を呈した。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017 年第 4 四半期の間、異なる 3 施設において腺疫の発生が 14 例確認された。確定診断は PCR 検査によってなされた。

トルコ

鼻疽 (*Burkholderia mallei*)

2017年10月13日、スクリーニング検査の中で鼻疽の発生が1例確認された。感染馬は安楽死となった。確定診断はマレイン反応によってなされた。検査は地域獣医機関の研究所（国立）の獣医師によってなされた。

アラブ首長国連邦（UAE）

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第4四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

ケンタッキー州において、*C. perfringens* C型毒素に関連する腸炎の発生が6例報告された。

東部馬脳炎（EEE）

30例のEEEが確認され、12例はウィスコンシン州で報告された。

ウマヘルペスウイルス（EHV-1&-4）による疾患

EHV-1およびEHV-4による呼吸器疾患が複数の州で拡大している。EHV-1による流産は異なる2施設で2例、EHV-4による流産は1例であった。EHV-1による神経疾患の発生は7つの州（コネティカット州、イリノイ州、ケンタッキー州、ニュージャージー州、オレゴン州、ペンシルベニア州、ワシントン州）で報告された。1件を除いて、単独での発生であった。7例の感染馬からは神経病原性株（G₂₂₅₄株）の関連が認められ、安楽死となった。多くの発生は調教施設であった。

ウマヘルペスウイルス2型（EHV-2）および5型（EHV-5）

EHV-2あるいはEHV-5の発生が多くの州で報告され、しばしば呼吸器感染の臨床所見と関連していた。

馬伝染性貧血(EIA)

馬伝染性貧血が3州で確認された。テネシー州（1例）、カンザス州（2例）、モンタナ州（複数例）であった。

馬インフルエンザ

2017年第4四半期中に、馬インフルエンザは9件の発生が確認された。ジョージア州、ミズーリ州、オハイオ州、テキサス州の4州で複数件の発生が確認されている。

リケッチア症

ワシントン州で1例の発生が確認された。

レプトスピラ症

ケンタッキー州でレプトスピラ症による流産の発生が8例確認された。

ロドコッカス感染症

アメリカにおいてロドコッカス感染症は風土病である。2017年第4四半期中に8例の発生が確認された。

ハト熱

アメリカにおいて *Corynebacterium pseudotuberculosis* 感染症は風土病である。ワシントン州で1例の発生が確認された。

馬増殖性腸症

Lawsonia intracellularis 感染による馬増殖性腸症がケンタッキー州（10例）、ペンシルベニア州（1例）で確認された。

サルモネラ症

2017年第4四半期中に、ケンタッキー州で血清型B群サルモネラの感染が10例確認された。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカにおいて腺疫は風土病であり、12州で31件の発生が確認されている。少なくとも5州で複数の発生が認められている。

ウエストナイル脳炎(WNE)

多くの州でウエストナイル脳炎の感染が確認されており、ニューヨーク州とユタ州では全103例のうち26例の発生が確認された。

ベネズエラ

報告未着。